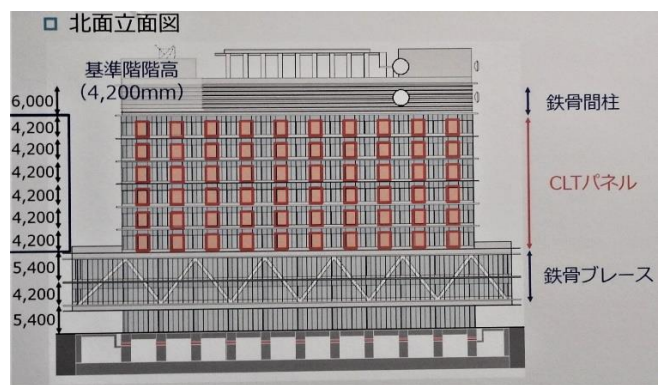
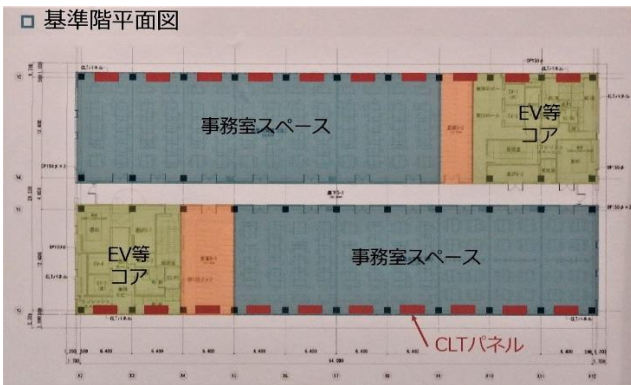


宮崎県防災庁舎



【建物概要】

■ 所在地	宮崎市橋通東1-9-18	■ 構造規模	鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造、免震構造 地上10階・地下1階建て
■ 設計	山下設計・岩切設計・ごとう 計画・設計 設計業務共同企業体	■ 延べ面積	24,406 m ²
■ 構造設計	山下設計	■ CLT 使用量	約 118 m ³
■ 構造計算	時刻歴応答解析	■ CLT 使用部位 サイズ	耐震パネル 4~9F 20枚/階×6階=120枚
■ 設備設計	山下設計		7層7プライ 1.8m×2.6m×210mm
■ 施工	戸田・吉原・大和開発 特定 建設工事共同企業体	■ 工期	2018年1月~2020年8月

2011年の東日本大震災を契機に、「いかなる災害が起きても機能し続ける」ことをコンセプトに計画・建設された防災庁舎で、免震装置や非常用発電装置、屋上にはヘリポートも備えられています。鉄骨造地上10階建ての4階から9階の6層の長辺方向64mの北面・南面に、耐震パネルとして県産材スギのCLTを用いています。階高4.2m・柱間6.4mの鉄骨躯体にCLTパネル(約1m³・450kg)を1枚ずつ鉄骨ブラケットで挿入して、水平力を負担させています。CLTは全層幅は

ぎありの表面層は縦継ぎなし材で、全部で 120 枚・約 118 m²が使われています。1階のエントランスホール、展示コーナーと休憩スペースには、不燃木材ルーバーの天井や可変の木壁パネルで、木質感のある空間が広がっています。

【講座概要】

インタビューでは、調査検討委員会から設計プロポーザル、防災庁舎に木のCLTを使うことの是非検討、県産材スギを用いたCLT回りの構造、現し使いで維持・管理が容易なこと等のお話を伺いました。設計者からは、当初の提案からCLT使用部位の変更、CLTパネルの交換可能な納まり等についても伺いました。